

熊谷市史編さん委員会・編集会議・専門部会 報告

一 熊谷市史編さん委員会報告

一 平成一九年度 第一回熊谷市史編さん委員会

日時 平成一九年八月三十一日（金）午後一時三〇分～
場所 熊谷市立商工会館 三―三

【概要】

- ・委嘱状交付
- ・委員長あいさつ（代理・教育次長）
- ・委員長・副委員長の選出
- ・互選により、村田委員を委員長に、飯塚委員を副委員長に選出した。村田委員長が議長となり議事の進行にあたった。
- ・会議内容

教育委員会から諮問を受けた「熊谷市史の編さんに

関する基本方針及び基本計画について」について審議を行った。

熊谷市史編さん大綱について事務局から説明

- (1) 市史編さんの経緯と趣旨について
- (2) 市史編さんの目的について
- (3) 市史編さんの基本方針について
- (4) 市史編さんの基本計画について
- (5) 組織体制について

・質疑

① 「今回対象とする熊谷・妻沼地域と既に村史・町史が刊行されている大里・江南地域との調整は② 「ダイジェスト版などは考えているか」③ 「市民に対してのPRは」④ 「編さん委員会と編集会議の関係は」⑤ 「市史の体裁・装丁について」⑥ 「発行部数について」などの質問が出された。

②については普及版を刊行予定、③は市報・ホームページ・市史研究などで市民に発信、④編さん委員会は基本方針・基本計画にかかる部分、編集委員会は編集・発刊にかかる部分を受け持つ―とし、①、⑤、⑥は次回の委員会に検討結果を提案し、協議をお願いすることとした。

二 平成一九年度 第二回熊谷市史編さん委員会

日時 平成一九年一〇月一日(月)午後一時三〇分～
場所 熊谷市役所六階 六〇三会議室(東)

【概要】

・教育長あいさつ

村田委員長が議長となり議事の進行にあたった。

・会議内容

1 前回の委員会での検討課題となっていた三項目について、検討結果を事務局から説明を行った。

(1)大里、江南との調整について、旧自治体史で対象にならなかった分野は対象に含め、新たに重要な資料が出た場合は補遺として充実させることとする。

(2)体裁・装丁については、本編のサイズはB5版で他のものは原案通りとしたい。

(3)発行部数については、発行段階で決めたい。

以上の提案に異議もなく、承認された。

2 二回にわたる編さん委員会の協議を踏まえて、答申書を作成すること及び教育委員会への答申について、委員長に一任することを決定した。

教育委員会へ答申

日時 平成一九年一〇月二三日
場所 熊谷市教育委員会 教育長室

村田編さん委員長から野原教育長に答申書を渡した。編さん委員会で審議された経過を報告し、答申書の内容について説明した。

三 平成二〇年度 第一回熊谷市史編さん委員会

日時 平成二〇年八月二十七日(水)午後二時～
場所 熊谷市役所六階 六〇三会議室(西)

【概要】

・編さん委員長・教育長あいさつ

・村田委員長が議長となり、議事の進行に当った。

・会議内容

1 熊谷市史編集委員設置規則、専門部会体制

平成一九年度第一回熊谷市史編集会議の開催状況、専門部会活動状況について、事務局から報告をした。

各専門部会の活動状況については、専門委員から補足して説明をした。

2 専門部会の事業計画について、中世部会から提案された「直実・実盛伝説」の刊行を新たに追加することと、近代部会から提案された「年次計画の変更（文言の追加）」について、事務局から提案説明をして、何かの意見が出されたが、原案通り承認された。

3 その他

市史編さんに関する広報の状況について質問が出され、市報・ホームページで広報していること、市史研究第一号を発行することで啓発活動を行っていくと事務局から説明し、了承された。

また、直実・実盛についての啓発と『直実・実盛伝説』の早期刊行について要望が出された。



平成19年度第1回 熊谷市史編さん委員会

（文責 山本 喜久治）

II 編集会議報告

一 平成一九年度 編集会議

日時 平成二〇年三月二四日(月) 午後二時～
場所 熊谷市役所 三〇三会議室

【概要】

・教育長あいさつ

・熊谷市史編集委員設置規則第四条により、委員の互選によって編集会議議長に飯塚好委員を選出する。

1 熊谷市史基本方針・基本計画について

事務局より熊谷市史編さん大綱等に沿って方針や計画を説明。資料編の対象は、熊谷・妻沼地域とするが、分野によっては大里・江南地域の資料を取り上げる必要があること等を確認した。

2 編集体制について

事務局より熊谷市史編さん大綱等に沿って説明。市職員の対応等についての質疑を受け、事務局が検討することとなる。

3 平成二〇年度市史編さん事業について

平成二〇年度の計画を事務局より説明。また、現代専門部会の設置を確認した。遠方調査時の事務局の対応、計画にない報告書の刊行、地形・地質の専門委員の早期委嘱等について質疑を受け、事務局で検討することとなる。

二 平成二〇年度 第一回編集会議

日時 平成二〇年九月二八日(日) 午後二時～
場所 熊谷市立熊谷図書館 第二講座室

【概要】

1 『直実・実盛伝説』の刊行について

高橋中世専門部会長より、熊谷直実、斎藤実盛について、資料編不掲載の史料から、伝説としてイメージされた両者の姿を明らかにする本の刊行について提案された。了承されたため、編さん会議に諮問することとなる。

2 各部会進捗状況

各専門部会より、平成二〇年度上半期の進捗状況について報告がなされた。

3 事務局が行う基礎調査の活動状況

事務局より、古文書調査、民俗基礎調査、行政文書の保存について報告。

4 市史研究について

今年度より発行する『熊谷市史研究』について、各専門部会より協力していただくこと等を確認した。

(文責 蛭間 健悟)



平成 19 年度 熊谷市史編集会議

III 専門部会活動報告

一 考古専門部会

考古専門部会長 柿沼 幹夫

考古資料編の刊行は平成二六年度であり、執筆のため
の調査が四年間、執筆期間が一年間となっている。この
ため、持続して調査研究を続けていけるよう、第一線で
活躍している研究者五人を専門調査員に選任した。選任
した五人は、次のとおりである。

(旧石器・縄文時代) 細田 勝

(弥生時代) 吉田 稔

(古墳時代) 関 義則

(古代) 井上尚明

(中世以降) 浅野晴樹

専門部会会議は、平成二〇年六月二一日と九月一〇日
の二回開催した。この会議で、資料編に掲載する候補遺
跡をリストアップし、発掘調査されている遺跡で報告書
刊行済み、未整理・未報告、過去の文献に掲載されてい

る遺跡に分類した。その上で、次のような検討作業を行っ
た。

① 報告書等からの転載が可能な遺跡、資料の実見・
実測・採拓・写真撮影の必要性がある遺跡、資料所
在不明による確認作業が必要な遺跡等による分類。

② 古墳等の遺跡にかかる測量調査、発掘調査の必要
性を確定するための現状調査。

③ 埴輪など一級資料(例・女塚遺跡出土品)の再実
測の外部委託。

これらを、平成二一年度以降、計画的に実施してい
けるよう、大まかであるが年次計画を作成した。

中世城館跡については、中世部会との協議により考古
編で取り扱うことになった。調査・研究については合同
で行うこととし、すでに現地調査を開始している。

問題点・課題としては、旧妻沼町の発掘調査資料がほ
とんど未整理で、報告書が刊行されていない状況があ
げられる。この中には、執筆するうえで欠かせない資料も
含まれており、実態調査を実施したうえで、その取り扱
いを検討していく必要がある。

二 古代専門部会

古代専門部会長 宮瀧 交二

古代専門部会は、本年度から、平成二四年度に予定されている『資料編2 古代・中世』、そして平成二八年度に予定されている『通史編 上巻』の刊行等に向けて調査活動を開始した。現時点で本部会は、熊谷市史編さん委員会委員・同編集会議専門委員で部会長の宮瀧交二（大東文化大学文学部准教授）、専門調査員の亀谷弘明（早稲田大学非常勤講師）、同・皆川雅樹（専修大学付属高等学校教諭）、同・三原康之（本郷学園非常勤講師）の四名から成る。四名の専門研究領域は、いずれも日本古代史である。

本年度は、平成二〇年十月二五日の第一回専門部会で協議をふまえて、まず今後の古代史・資料の調査の前提となる作業として、これまでに刊行された『熊谷市史前編』（昭和三八年）、新たに合併により熊谷市となった旧江南町の『江南町史 資料編2 古代・中世』（平成一〇年刊行）・『江南町史 通史編 上巻』（平成一六年刊行）、同じく旧大里町の『大里村史（通史編）』（平

成二年刊行）、旧妻沼町の『妻沼町誌』（昭和五二年刊行）等を紐解いて、各書に収められた古代史・資料の確認、そしてそれぞれの時点で叙述された現・熊谷地域の古代に関する記述を確認することから着手した。その結果、今回の市史では、現在の市域に該当するものと思われる古代武蔵国の幡羅郡・大里郡・埼玉郡・男衾郡の四郡を中心とした史・資料を収集し、現・熊谷地域の古代史の叙述を目指すこととした。

また、平成二一年二月二七日には、宮瀧が事務局とともに、江南文化財センターを訪問し、ここに保管されている熊谷市西別府祭祀遺跡出土の墨書土器の調査を実施した。同遺跡は、湯殿神社の北側に位置する湧水地に形成されたものであり、七世紀中葉から一一世紀代にかけて継続して祭祀が営まれたことが判明している。特に、古墳時代の、人・馬・剣・横櫛等を象つた石製模造品の存在は他にあまり類例を見ないものであり注目されている。平成四年度に熊谷市教育委員会の手で実施された発掘調査に伴って出土した奈良・平安時代を中心とする墨書土器は四一点を数えるが、今回の資料調査の結果、口縁部に煤が付着し、明らかに灯明皿として使用されたと

みられるものや、「器佛」（仏用の器の意味か）と墨書されたもの等が含まれており、古墳時代以降の一連の水辺の祭祀に伴う遺物群と、その性格は一線を画する資料群であることが判明した。むしろ、隣接地に存在した西別府廃寺（存続時期は八世紀初頭から九世紀代）や、中世にかけて仏堂が存在した可能性が指摘されている（熊谷市教育委員会の御教示）こと等を鑑みれば、これらの墨書土器は、このような仏施設と関係する仏事に伴う資料群とみておくことが、現時点では最も妥当な見解であるという結論を得るに至った。

更に三月二一・二三日には、宮瀧、亀谷と事務局が関西に赴き、史料調査を実施した。一二日には愛知県名古屋市中区大須に位置する北野山真福寺宝生院（通称・大須観音）の真福寺文庫に赴き、重要文化財『倭名類從抄』の調査を実施した。当初期待した武蔵国とその郡郷名記述に関する新知見の発見はかなわなかったが、『熊谷市史』刊行に際しての同文庫所蔵『将門記』他の古代・中世史料の写真掲載等についての御協力をお願いし、快諾を得ることが出来た。翌二三日には、奈良県奈良市の独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所の都城発掘

調査部史料研究室を訪れ、平城京より出土した武蔵国男衾郡・埼玉郡・幡羅郡関係の木簡の調査・検討を実施した。同研究室の職員とともに赤外線カメラ等を用いて当該木簡を再検討したところ、いくつかの貴重な新知見を得ることが出来た。その成果は、平成二四年度刊行予定の『資料編2 古代・中世』において公にする予定である。また、平成二一年三月二〇日には、第二回専門部会（中世専門部会との合同会議）を開催し、来年度の活動内容について協議した。また、中世専門部会とともに、市史にかかる古代、中世の執筆分担に関する協議を行った。これに続いて今後早い時期に、熊谷市域を中心とした古墳・奈良・平安時代遺跡の考古学による調査成果を『資料編2 古代・中世』及び『通史編 上巻』にどのような反映させていくかについて、考古専門部会とも執筆分担等の協議を行う必要を確認した。

平成二一年度も、引き続き関連史・資料の調査を粛々と継続していく予定である。

三 中世専門部会

中世専門部会長 高橋 修

一、中世専門部会の開催

中世専門部会は、『通史編 上巻』、『資料編二 古代・中世』、および中世にかかわる調査報告書などの編集を担当する。このうち資料編二の刊行が平成二四年度に予定されているので、その編纂にかかわる方針を確認するための専門部会を三回開催した。また地域の悉皆調査を踏まえた『中世の石造物』を報告書として刊行する予定であるため、中世石造物調査会議を一回開催した。さらに古代専門部会との調整を図るため、古代・中世合同専門部会を一回開催している。

ここでは専門部会の議事の中で、資料編二および報告書『中世の石造物』刊行に向けて確認された方針について、以下に紹介したい。

二、資料編二 古代・中世の編纂方針

① 採録範囲

編年史料には、古文書・古記録・金石文等を年代順に

配列する。長元八年（一〇三五）頃成立の武蔵国大里郡坪付までを古代専門部会が担当し、それ以降の史料を中世専門部会が採録する。熊谷地域のうち、市史の編纂方針として確認されている旧熊谷地域・旧妻沼町域という地理的範囲を尊重しつつも、かつての大里郡をはじめとする現地域にかかわる諸郡を視野に収め、この地域の中世史を解明する上で落とすことの出来ない史料の採録を幅広く検討することとなった。

熊谷地域の歴史を解明する基本史料となり、しかも原秩序をよく保つ史料群として、「熊谷家文書」「別府家文書」「龍淵寺所蔵史料」等については、原本調査を実施し、その成果を踏まえて、家わけ史料として収める予定である。市内に所在する中世史料についても、これに準じて採録する。

このうち「熊谷家文書」は、熊谷氏が武蔵熊谷郷に所領を維持していた永享年間までの文書約一六〇点を収録する。「別府家文書」は、別符潔氏所蔵文書については全点、その他流出文書については可能な限り収集して収録する。「龍淵寺所蔵史料」としては、「成田記」「成田氏分限帳」などを収録する。さらに別冊として「写真集」

を編集する。これには、特に重要な一次史料の写真を収録する予定である。

②解説計画

利用価値が高く、一般市民にも親しみやすい史料集を目指し、充実した解説を用意することを方針とする。

まず編年史料に収める史料には、一点一点に次のような解説を付ける予定である。

年／月日／綱文／番号／史料名称／所蔵／本文／解説
 説（二〇〇〇〜四〇〇〇字程度）／注釈（必要に応じて）
 家わけ史料には、次のような解説を行う予定である。

史料名称／所蔵（市内所蔵史料のみ）／本文／解説
 （二〇〇〇〜四〇〇〇字程度）／注釈（必要に応じて）
 ／データ（寸法、紙質、保存状況、その他）

煩雑となるのを避けるため、また、より多くの史料を掲載するため、いずれも読み下し文は付けない。

③作業・調査

今年度は、市立熊谷図書館と合同で、大東急記念文庫所蔵「熊谷蓮生自筆書状」、前田育徳会尊経閣文庫所蔵「桑華書志」所収「熊谷家系図」などの原本調査を行った。

来年度は、主に編年史料に採録する史料のリストアップを進める。あわせて山口県立文書館で「熊谷家文書」の、静岡市西敬寺で「別府家文書」の原本調査を行い、また熊谷市域に所在する中世史料についても、可能な限り原本調査を進めていく予定である。

三、報告書『中世の石造物』の調査方針

中世専門部会の中に、「石造物を専門に担当する専門調査員・協力員を配置した。すでに調査が終わっている旧江南町域を除く熊谷市域の中世石造物について悉皆調査を実施し、その成果を報告書に編集することとなる。

調査の進め方としては、まず県や研究者個人などの既存の調査データを収集・整理し、次にその確認調査を進める。その過程で、未確認資料の発見に努める。さらに必要に応じて再調査を行い、拓本採取や実測図の作成を行う。

またまって未調査資料が存在する、発掘調査にともなう出土品の収蔵施設から、調査を始める。平成二六年度の悉皆調査完了を目指す。

四 近世専門部会

近世専門部会長 北村 行遠

本年度よりはじまった近世部会では、これまで二回の会議を開催した。市史編さん事業の方針および計画の概要や、古文書調査の現状などを確認の上、市史編さんに向けての、部会としての今後の調査・編集方針などについて検討をおこなった。

第一回近世部会（平成二〇年六月二五日）

・編集方針について

古文書調査の対象地域は市内全域におよんでいるが、なかでも旧熊谷市域や旧妻沼町域は、かつての市史編さん事業が終了してからかなり年数が経過していることもあるので、今回刊行を予定している『資料編』および『通史編』の主たる内容は、この両地域の史料を中心に構成・叙述する方向ですすめていくことを確認した。

・古文書調査について

市史編さん室より現時点での史料所在状況の報告をうけ、旧熊谷市域では本陣であった竹井家、大麻生の古沢

家、平塚新田の山下家、中奈良の野中家、下奈良の飯塚家など、ある程度まとまりのある古文書群の存在を確認した。

膨大な古文書群のなかで未整理分のもも数多くみられるので、今後の調査計画にもとづき、史料整理をおこなっていく上での優先順位や注意項目などを検討した。また、地域的な特徴がみられる古文書群を優先して整理していくことを部会として確認した。なお、今後とも史料調査および整理は、市史編さん室で継続していくが、一部の史料調査・整理については、立正大学古文書研究会との合同調査としておこなわれているとの報告をうけた。

・刊行計画について

資料編は、旧妻沼町編が平成三十一年、旧熊谷市編は上・下巻二冊で、それぞれ平成三十三年、三十五年の刊行予定であること、また「通史編（近世）」の刊行は、平成三十七年に予定されていることを確認した。

・年代区分について

古代・中世部会や近代・現代部会と連絡を取りながら、近世部会の取り扱う年代の調整をはかっていく必要がある

り、今後の検討課題とした。

・絵地図や村明細史料などについて

史料調査のなかで、多くの絵地図や村明細史料が見つかっており、市民に親しまれる市史として、興味の持たれやすい「絵図集」や「村明細帳」などの刊行を提案。具体的な内容については今後の課題とした。

第二回近世部会（平成二〇年一月二六日）

・『熊谷市史稿』について

近世部会からの要請により、市史編さん室から『熊谷市史稿』の紹介・説明をうけた。戦前に編纂されて、戦時下のため出版が見合わされていた『熊谷市史』の稿本は、その存在については知られていたが、実際にどのような史料（古文書）を使用して編纂されていたのか、不明な部分もあり、その内容について検討した。現在では所在不明の史料もあるが、旧熊谷地域の歴史を知る上で必要不可欠な史料も数多く掲載されており、今後の重要な参考資料となるとの見解を得た。

・古文書調査の進捗状況について

前回に引き続き、市史編さん室より現時点での史料調

査状況の報告をうけた。旧熊谷宿については、『熊谷市史稿』をもとに史料の所在調査をするように要望し、他地域についても継続して調査をおこなうことを確認した。また、図書館・文書館・博物館などの公立機関に所蔵される熊谷市域に関する調査についても必要であるが、これは今後の課題として検討していくこととなった。

・『市史研究』について

『市史研究』の創刊号では、熊谷市に寄贈された下奈良飯塚泰久家文書の紹介が掲載されることとなった。同家文書は、すでに立正大学古文書研究会にて調査・目録作成がおこなわれており、専門調査員の細野健太郎氏（同会OB）にその史料紹介を執筆してもらうことにした。

五 近代専門部会

近代専門部会長 村田 安穂

編集開始以前は近現代部会を一つとする案であった。しかし最近の日本史の学会では一九四五年の終戦以後を現代史としてとらえ研究が進展していること、また熊谷市の場合、同年の中心地域での戦災を転機として大変貌を遂げたこと、さらに近年大合併が行われたこと、したがって近現代の熊谷の発展を語る史資料の量が多く本格的調査はこれからであること、市史の最後の刊行が平成三三年度で編集期間がずっと先であることを考えて、内容的には戦前・戦後で連続面も多いが近代と現代を二部会に分割した。もちろん編集活動上連携を密にしていこうことはいうまでもない。部会当日には以下のほか多くの話題がでた。

第一回 近代・現代合同専門部会、近代専門部会

(平成二〇年七月六日)

最初に近代・現代合同専門部会の顔合わせを行い、そのあと近代部会の会合を持ち年間計画を協議した。

通史を念頭に置いた近代の史資料収集に関して、時代区分については、最近の日本史では、近代は嘉永六年（一八五三）ペリーの来航から昭和二〇年（一九四五）の終戦までである。またこんにち時代前後の過渡期の記述が重視されている。近代の終期には熊谷では戦災があり、その後の復興と発展があつてこんにちに至っている。さかのぼって昭和期（昭和八年市制施行）から近代・現代両専門部会で一緒に取り扱うべきであろうとの意見がでた。なお市史の現代の終期については、編さんないし編集会議で決めることでもあり後日の検討課題とした。

第二回 近代専門部会（平成二〇年九月二一日）

今後の調査計画について話し合いをし、各委員の分野分担については政治・行政、産業・経済、社会・労働、教育・文化が考えられるが、当面決めず、とりあえず近代史資料に全員で一緒にあたって勉強しながらどういうテーマがたてられるか柔軟に考えていくことにした。終わりに市史編さん室所蔵文書の現況を説明をうけながら見学した。

第三回 近代・現代合同専門部会

(平成二〇年十一月六日)

合併や変貌の著しい熊谷の地域の現状の理解を深めて編集に役立てるため、現代専門部会と合同で第一回目として市内北部地域(妻沼中心)の巡検を行った(現代専門部会報告参照)。案内・解説は現代専門部会高橋信之専門調査員が担当した。

第四回 近代専門部会(平成二十一年一月二五日)

会議では平成二十一年度の活動計画について、市史編さん室をはじめ熊谷市立図書館・埼玉県立文書館・国立公文書館・東京大学法学部明治新聞雑誌文庫などで收藏する関係史資料を閲覧し、収集計画を立て、一部開始することにした。熊谷の近代の産業(製粉・製麺・製糸・染色・家具業)の史資料も早く調査を開始する必要があるとの意見がでた。また近代以降熊谷から市の内外を問わず各界で活躍した人々が輩出していることに注目するべきであるとの意見がでた。また成果を収めた前回に続いて今年度も市内の他地域の巡検を行

うことを決めた。最後に熊谷市立熊谷図書館所蔵の関係文書につき大井教寛主任の説明で收藏庫の現況を見学した。



市内巡検の様子(妻沼聖天山)

六 現代専門部会

現代専門部会長 黒須 茂

現代史の通史編・資料編の刊行は市史編さん計画の中では終末期であり、その点部会活動としては年次的に若干余裕もあり、本年度は部会の組織づくりと、現代史編さん計画の基本事項の作成に重点を置いた。尚現代史は「近代史部会」との結びつきが取り分け深いため、今後とも活動の連繫を強めるため、当初に合同の部会を開催し、今後必要に応じ合同部会を開くこととした。

第一回現代史部会（平成二〇年七月六日）

・前半 近現代史合同部会

委員紹介後意見交換となったが、初めての会合でもあり、深められた論議はなし、ただ近代、現代史の時代画期については、今後各部会で討議し、これらの討議を踏まえ、まとめることとした。

・後半 現代史部会

(一) 次回の部会の議題等について討議

①委員の担当分野の確定

②近現代の時代画期

③今後の調査計画等が話題となる。

(二) 当面の課題について論議

委員で、熊谷市域を熟知していない者もあり、また近年の変化も激しいので、「市内巡検」をする必要があるとの意見がでる。

第二回現代史部会（平成二〇年八月三日）

一、委員の担当分野の確定（主たる担当分野）

(一) 政治・行政（荒井委員）

(二) 産業・経済（小熊委員）

(三) 社会・労働（岸委員）

(四) 教育・文化（高橋委員）

(五) 総合・特別分野（黒須委員）

二、近現代史の時代画期について

・昭和二〇年も一つの画期

・遡って記述すべき分野等もある

・近代部会との関係もあり継続審議とする

三、熊谷市域の巡検について

・妻沼を中心とした北部地域の巡検とする。

・計画や当日案内役を高橋委員に依頼。

第三回現代史部会（近代史との合同部会）

熊谷市北部地域巡検（平成二〇年十一月十六日）

一、巡検箇所・地域（主要部分）

- ①上中条・常光院、中条堤
- ②葛和田・大龍寺、俵瀬地区
- ③福川水門、葛和田の渡し
- ④妻沼・聖天堂
- ⑤男沼・農業構造改善事業パイロット地区
- ⑥永井太田・能護寺、備前渠用水
- ⑦別府公園、湯殿神社
- ⑧西別府・安楽寺
- ⑨下奈良・集福寺

二、日程

*午前一〇時 熊谷駅南口集合・出発 *昼食 聖天堂

*午後三時半 熊谷駅北口で解散

三、巡検資料（高橋委員作成）

*巡検地の概説 *中条堤付近の迅速測図 *男沼地区

農業構造改善事業土地基盤整備図（実施前・実施後）

*巡検地付近二万五千分の一地形図

四、巡検概要

当日天候には恵まれなかったが、予定通り実施。巡検地間の移動は、市提供の車による。やや盛り沢山な計画で

あつたため、時間不足で一部割愛したが、委員の認識を深めた巡検となる。



市内巡検の様子（男沼農業構造改善事業パイロット地区）

七 民俗専門部会

民俗専門部会長 飯塚 好

第一回民俗専門部会

日時 平成二〇年六月一四日(土) 午後二時より

場所 熊谷図書館四階第二会議室

内容 別編『民俗編』の編集方針と役割分担。平成二

〇年度の調査計画。社会生活、生産生業、年中行事、人の一生、信仰などについての分担を決定した。

平成二〇年度調査

(一) 熊谷市史民俗基礎調査

『民間信仰・口頭伝承(熊谷地域)』『民間信仰・口頭伝承(妻沼地域)』の概要の執筆をした。

「生産・生業(熊谷地域)」「生産・生業(妻沼地域)」の調査内容を事務局とともに検討し、それぞれの説明会においては、調査実施にあたっての講話を行った。

(二) 現地調査

妻沼地域の主に年中行事の調査を中心に行った。

調査地は、男沼、上小島、八木田、上江袋、市ノ坪、上根、

江波、西城、田島、日向、葛和田、大野である。民俗基礎調査『年中行事(妻沼地域)』の内容を見ながら追加調査を行った。

信仰、人の一生については、これまで行われてきた調査内容を検討した。



第1回 民俗専門部会